

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4092000084		
法人名	医療法人 金子病院		
事業所名	グループホーム合歡の木(Aユニット)		
所在地	柳川市久々原44番地2		
自己評価作成日	令和4年2月5日	評価結果確定日	令和4年3月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和4年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本事業者は広い空間を特徴とし、天井を高くしており天窓やウッドデッキ側から日が当たりとても明るく過ごしやすい作りとなっています。コロナ禍のなか感染対策にも気を配り母体となる病院と連携をしながらの健康管理に努めています。外出支援がなかなかできないなか、利用者の方々へのようにより楽しく過ごしていただけるのか考え利用者の「～したい」「～が食べたい」などの要望を聞きながら、笑顔で過ごしていただけるよう職員同士協力し日々の支援を行っています。医療面では、母体である病院と常に連携が図れるよう、日々連絡を取り合い利用者の方々への情報や気になる点などは、報告を行っています。医師や看護師の訪問もあり、利用者の方々も安心して過ごされてあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で能力に応じたその人らしい暮らし作りをお手伝いします」との理念を毎朝唱和している。入居者の言動を詳細に観察した気付きを申し送りノートで共有し、気づきを盛り込んだ介護計画が作成され、コロナ禍の中職員が一人丸となってレクリエーションなどで入居者の笑顔を引き出している。法人代表の隣接する病院長が入居者の状況把握に毎日のように来訪され、緊急時は病院看護師と連携し適切な医療受診に繋ぐなど、入居者や家族、地域から篤い信頼を得ている。毎月発行しているイベントなどの入居者の写真を掲載したホーム便りは、家族から楽しみにしているなど意見が寄せられ、地区区長や民生委員の方々からは、「いつでも協力する」との心強い声かけがあるなど、今後も家族や地域の理解や協力を得ながら、さらなる理念の具現化が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **Aユニット／グループホーム合歡の木**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送りにて、理念の唱和を継続している。毎日の生活空間がゆったりとしたものになり、利用者1人1人の個性が発揮されるよう支援している。	「ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で能力に応じたその人らしい暮らし作りをお手伝いします」との理念を毎朝唱和し、業務への心構えとしている。レクリエーションなどでの入居者の笑顔から、理念の実践が実感できると、職員は話している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在、コロナの影響があり思うような関わりができていない。保育園からの七夕の笹の葉のプレゼントや勤労感謝の日の花の贈呈など訪問があった際は、感染対策を行い利用者代表で何人かの方に受け取りをしてもらった。	医療機関に併設のホームとして、感染防止対策を徹底しながら、地域交流に努めている。入居者の代表だけが七夕の笹の葉や勤労感謝の花を受け取ったが、窓越しに大勢の保育園児の姿に入居者は大変喜ばれていた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響により、なかなか地域の人々へ発信する場へ出向くことができていない。認知症のケアについてなど職員の研修は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響にて、十分な話し合いが行えていない。利用者の状況や施設の現在の状況は、その都度お知らせをしており、意見を聞いたりしている。市役所へ行った際には、市役所の担当者と話をしたりしている。	この2年間は行事や入居者の状況を会議のメンバーに送付し、意見の集約をしているが、特段の意見は出ていない。整備した議事録は、いつでも閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	利用者の状況や施設の状況はお知らせをしている。利用者の空き状況の問い合わせもあつたりしている。	市役所に管理者が出向いた折には、担当職員と話す機会を持つよう努め、空き情報等を連絡したり、問い合わせに対応するなど協力関係を築くよう努力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会や法人内での勉強会も行われている。床へ降りられる利用者さんもいるが、なぜそのような行動をとるのか？を職員同士が観察し、利用者さんの気持ちをくみ取り拘束をしないケアを実施している。	勉強会で身体拘束の具体的な内容を周知している。床にマットやソフトマットを敷いてベッドからの転落や頭部打撲を防止し、夜間の見回りを頻回にしている。入居間もなく帰宅したいと立ち上がる方には、職員の「今夜泊まって明日帰りましょう」と納得できる声かけをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行っており、職員1人1人の意識づけを行っている。職員同士言葉使用で気になるなど、思ったときはお互いに声を掛け合おうと管理者が職員に呼びかけ実践中である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常自立支援事業や成年後見制度の利用者はいない。パンフレットを整備している。	いつでも閲覧できるように、成年後見制度や自立支援事業に関する資料を作成している。現在は制度などの活用はないが、研修で事業や制度の違い、活用への手順など理解を深めたいと話している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際の契約は、不安な点など聞き対応している。また、入所後も何か質問や心配なことがある時はその都度、話を聞き対応している。入所申し込み時や、施設見学時にも料金の説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の面会時に要望が出た際は反映している。また、利用者の方々との日々の関わりのなかで要望が出た際はそれに沿って行っている。	毎月発行しているイベントなどの入居者の写真を掲載したホーム便りは、家族から楽しみにしているなど意見が寄せられ、支払いや面会時に家族から頂いた意見は、真摯に対応している。	毎月のホーム便りに運営推進会議の案内や議事録などを掲載し、さらなる家族の意見の表出を期待します。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の職員間のコミュニケーションの中でや月1回の会議のなかで出た意見はなるべく反映できるよう管理者同士話し合ったり、必要時は代表者へ相談を行っている。	日頃から風通しの良い関係性が構築されている。月1回のユニット会議で、ケアや業務の仕方など話し合い働きやすい環境を整えたり、先ずは実践しようと意見を受け入れ、提案された洗濯機の買い替えが叶えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者から代表者へ必要の都度、報告を行い現状把握をし対策を行い、職員が働きやすい職場作りに努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在ホームでは、60歳以上の職員3名を雇用している。皆が協力し、楽しく仕事ができるよう努めている。利用者の衣服のサイズ合わせや食事用エプロンを利用者が自分ではめやすいように縫い合わせたりするなど、能力を發揮できる場面もある。	70歳定年で20歳から60代の職員が就業している。希望休を叶え、個々の体力や能力に応じた働きやすい環境を整備し、研修参加や資格取得も奨励されている。新規採用の20歳の職員は入居者に大いに歓迎され、6年前口コミで入職した60代の職員は、職員の穏やかな雰囲気働きやすいと話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者が気づいたときは注意をしたり、資料を作成しユニット会議時に勉強会を行い、啓発に取り組んでいる。	職員同士で言葉遣いを注意し合える環境を整え、管理者が個別に入居者達の話聞く機会を設けるなど、人権に配慮した取り組みに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍であり、オンライン研修に主に参加している。勤務時間を使ったり、時には勤務時間外でも参加してくれる職員もいる。今年度は、市内で行われた研修や認知症介護基礎研修にも参加できた。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍により交流できる場に出向くことができていない。専門職地域支援ネットワーク「よりめせ」も現在は中止中である。グループホーム協議会の勉強会にオンラインで参加する事ができた。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームは隣接する病院からの入所も多いため、病院との連携が図れるよう努めている。入所前には、本人へ直接会いに行ったりADLの状態観察や会話を行い、職員への情報伝達を行い安心して利用ができるよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所時に要望をお聞きし、～してほしいや、～が心配などの声をよく聞くため、少しでも要望に応えられるよう努めたり心配な点や不安がぬぐえるよう声かけしている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の方や本人と意思疎通ができれば本人からも話を聞き、その方の生活歴等を踏まえ何がまず大事か、何をしてほしいかを読み取り職員同士話し合いながら支援の方法を検討している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人とのコミュニケーションや関わりを大事にしている。できる能力を活かしてもらい、洗濯物たたみやゴミ箱折り等それぞれ役割りをもって生活できるよう支援している。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の状況や心情を家族の方とコミュニケーションを図る際、報告している。遠方におられる家族の方とも電話お話し、状況を伝えたり本人と電話でやりとりを行っている。月1回のホーム便りの喜ばれ「元気そう良かった。写真を家に飾っている」と言われる家族もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響もあり、外出ができない状況が続いている。遠方で会うこのできない家族の方と電話で話したり、昔からの友人と電話で話をされる利用者はおられ、懐かしいと笑顔がみられる。	大きな掃き出し窓越しで家族との面会を支援しているが、電話での通話を支援している入居者もある。理美容に関しては、得意な職員が対応し喜ばれている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士よく会話をされることが多く、1人1人笑顔がみられている。歩行が不安定な利用者さんには、「危なかよ、用心せんね。」と、声を掛けられる場面もみられる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する病院へ入院される方がほとんどで管理者や職員が見舞いに行ったり病院の方より、状況報告をいただくこともある。また、家族の方とも病院でお会いした際はコミュニケーションを図っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と日々関わりながら、本人の意向や希望を聞きとるよう努めている。意思の伝達が難しい方は、行動やしぐさ等を読みとり本人の思いを分析しながら職員同士話し、できるだけ意向に沿えるよう努めている。	入居者の言動を詳細に観察した気付きを申し送りノートで共有している。食事は車椅子でされるが、それ以外ではずり下りたり、ベットから下りる入居者の思いを分析や共感しながら、したい事が出来る様に支援している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される時に、家族の方からこれまでの暮らし方や本人の好み等を聞き少しでもこれまでの暮らしに近い生活を送ってもらえるよう努め1人1人に安心して過ごしてもらえるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態は、毎日のバイタルチェックを行い観察し、変化時は隣接する病院へ報告し必要時にはDrの往診がある。また日々の生活を記録に残し気になる事や変化に気付いたときは職員同士共有している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議やその時々で課題が出たときは、職員間や隣接する病院の看護師などと話し合いながらそこで出たアイデアを活かし、プランに反映できるように努めている。	食後ゲップがよく出る入居者は食べ方や体位の工夫、待機時間を調整するなど、細かな気づきを検討し、日々のケアに活かしている。	アセスメントシートに、日々の変化や気付きを追記し、短期目標と具体的ケア内容が連動することで、さらに現状に即した介護計画を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の記録は毎日記入し、職員皆と情報の共有ができるよう努めている。毎月のユニット会議や日々の関わりのなかで変化があった時は、その都度話し合い検討している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者1人1人の意思を聞きながら職員間で話し合い検討し、安心して過ごしてもらえるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響があり、なかなか地域のサロンなど出向くことができていない。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接する病院がかかりつけ医の方がほとんどで利用者も近くに病院があることで安心して過ごされている。他科へ受診される方もおり、家族の支援のもと受診される。	他科受診は家族の同行をお願いしているが、隣接する病院長が入居者の状況把握に毎日のように来訪されている。看護職員がストーマ処置や、爪切りなど支援し、緊急時は隣接する病院の看護師と連携し、適切な医療受診に繋げている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々の変化を把握し、管理者が隣接する病院に報告をし適切な治療が受けられるよう支援し、24時間体制で連携がとれるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院へ入院の際は、管理者が病院と連携をとり情報を伝達している。退院後も利用者が安心して生活が送れるよう支援している。隣接する病院へ入院されることが多く日頃から関係者としてより良い関係が築けるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化の対応や終末期ケアの指針を契約時に話し同意を交わしている。日頃より医師や看護師と情報を共有し重度化した場合は、医師から家族へ説明が行われ本人にとってよりよい支援が行われるように努めている。	入居時、本人や家族と同意書を交わし、管理者は入居者の不安などの相談に応じている。ホームでの看取りはなく、永年地域の医療機関として篤い信頼を得ている隣接する病院に搬送されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応マニュアルを作成している。利用者の急変時や事故発生時は、隣接する病院の医師と看護師がかけつけてくれるよう日頃より連携をとっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画及び対処マニュアルを作成している。定期的な年2回の訓練を実施し、消防設備管理者の支援もうけている。非常食も常に備蓄し利用者に関する持ち出し書面も作成し災害に備えている。	年2回の避難訓練を行い、町内会への参加はないが、区長や民生委員の方々からは、「いつでも協力する」との心強い声かけをいただいている。入居者に関する持ち出し書面や食料、感染グッズ、衛生材料など備蓄台帳を整備している。	これまでの災害対策継続とともに、令和3年から3年の経過措置が設けられた自然災害や新型コロナウイルス感染発生時における業務継続計画の作成などを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人1人に合わせた声かけをし、耳が遠く聞こえにくい方には筆談やジェスチャーを使い対応している。オムツ交換時やトイレ誘導時などプライバシーに配慮し対応している。	入居者は〇〇さんと呼称しているが、同じ苗字の場合は下の名前やフルネームで呼びかけている。特に排泄時は、プライバシーや尊厳に留意した声かけや介助を実践している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりのなか、利用者との信頼関係が築けるよう努め、職員に対し思いを話したり、希望が言えるよう支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の意思に沿えるよう、日々の暮らしづくりを支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意思を聞き「髪を切ってほしい」と、言われる利用者に対し職員が対応し1人1人に似合ったおしゃれを取り入れている。ズボンの裾上げなど本人の身だしなみにも配慮し対応している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人1人の状態に合わせ、ご飯の量や形態を考えながら食事の時間が楽しみなものになり美味しく食べていただけるよう努めている。	朝食と炊飯、汁物はホームで調理し、昼夕の副食は病院厨房で調理している。麺類や唐揚げ等が好評で、カボチャや芋が食べたいとの希望は朝食時に叶えている。刻み食やミキサー食はホームで対応し、入居者の関係性に留意した座席で、楽しく食事ができる環境づくりに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者1人1人に合わせ量や形態の調整を行っている。食事量や水分量の記録を毎日行い、水分が少ない方には一度にではなく何回かに分けて水分を促したり食事量が少ないことが続く場合は隣接する病院へ報告を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを促し磨き残しがある方でもできるところまでは自己にて磨いてもらい、職員が残りのケアを行っており口腔内の清潔に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	日中はできる限りトイレにて排泄を促し、以前はオムツを使用してあった方も日中はトイレにて排泄ができるようになった。オムツ交換時やトイレ排泄時は、毎回洗浄を行い清潔に努めている。	夜間は前止めオムツを使用している入居者も、日中はリハビリパンツでトイレでの排泄を支援している。自ら洗濯物たたみやモップかけなどされる入居者も多く、できることをお願いすることで排泄の自立に繋げている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェックを行い、便秘の方には水分を促している。また、主治医に相談し薬を使用される方もいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	1人週2回の入浴を実施している。1人1人の身体機能に合わせて介助を行ったり好みの温度に調整を行い気持ちよく入浴の時間が過ぎせるよう努めている。	3方向から介助できる浴槽が設置され、自前のシャンプーやボディソープの持ち込みもある。ひとりずつゆったりとした入浴は、入居者の話や訴えを聴ける時間にもなり、入浴を億劫がる方はいない。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動に参加していただけるよう声かけし、体操やレクレーションを行い体を動かして夜間の睡眠がとれるよう促している。昼食後は、休息ができるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表を作成しており、職員が利用者の薬の種類や効能が確認できるようにしている。薬の相談がいつでもできるよかりつけ医と連携をとっている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気候に合わせてベランダにて日光浴をしたり花の観察をする利用者もいる。洗濯物たたんだり、ホームで使う新聞や袋を折ったり、ゴミ箱折りをする利用者もあり1人1人の力を活かし支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり、外出支援が乏しくなっている。利用者の中には「今年は、さげもん観に行かれるやろかねえ」と、言われる方もおられるが状況を見ての外出になると思う。ベランダに出て、外の空気を吸ってもらうなど、気分転換をしてもらえるよう心がけている。	コロナ渦の中、レクリエーションや入居者に好評の折り紙や塗り絵などで、楽しめる時間を設けている。木製ベランダに出るだけでも気分転換になり、職員は入居者の笑顔にほっとしている。入居者職員ともに感染収束を心待ちにしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の保管は現実には厳しい状況である。必要な物や本人が希望される物は家族の方をお願いしたり職員が買い物に行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方にいる娘様や昔からの友人の方から電話がかかってくるが多く、本人へとりつぎ居室にてゆっくり話していただけるよう支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓側から光がさし、フロア内も広く明るい空間となっている。廊下やトイレ内も広く、車椅子の操作もスムーズにできるよう作られている。フロア内には、観葉植物や花を置き季節感を出している。	広い掃き出しの窓から陽光が差し込み、天井高く開放感あふれる広い共有空間は、壁に季節のおひなさまの貼り絵が飾られている。テレビと黄色いソファと大きなテーブルが3つ配置され、入居者の関係性や状況に合わせて席替えを行っている。モップで掃除を手伝う入居者もあり、清潔なフロアである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓側から光がさし、傍にはソファを2つ並べ利用者ゆったり過ごせるよう配慮している。気の合う利用者同士、会話が弾む場面もみられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族の希望が極力叶えられるように努めている。利用者の状態によっては、家具の配置等も考えて対応している。	明るく掃除が行き届いた居室は、空気清浄機やベット、サイド小箆筒が設置されている。小箆筒上には孫の写真や手作りの品が飾られたり、テレビが持ち込まれた居室もあり、居心地良い居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりが設置されており、広い空間の中で職員の見守りのもと、歩行練習をされる利用者もいる。車椅子の方も、自己駆動が行えるよう促している。		